

第95回教育課程小委員会議事録

1 日時・場所

2023年11月2日(木) 20:00-21:10 ZOOM会議

2 参加者(以降、敬称略)

(地学) 市川、飯田和也、小林、瀧上、富樫、丹羽、畠山、藤原、南島、宮嶋、矢島

(地理) 高橋、山本、

(オブザーバー) 阿部、林

3 協議

(1) 『高校「地学基礎」教科書における用語に関する研究集会』の総括

参加者数、各講演の内容及び総合討論での論点の概要について確認を行い、了解を得た。

◇参加者数

対面31人(欠0)、オンライン31人(欠8)

◇各講演の概要

①中学理科(今吉氏)

- ・編集担当の勉強会として発足
- ・違いのある用語を一覧にして(100語)、各社がその表記の理由を述べ合う
- ・統一が出来るものを順次、教科書に反映
- ・指導要領の書き方の細かさ 高校 > 中学 > 小学

②生物系(片山氏)

- ・用語に関する中教審の指摘 → 学術会議からの提言(用語の多さが生物離れを招く)
- ・用語の評価後、学会連合から各大学や入試センターに要望書
- ・要望がどの程度生かされているか入試問題のチェック
- ・現在、用語集の作成途上

③地理系(秋本氏)

- ・地理の内容(用語)に関する学術会議からの提言(2011年)
- ・研究の進展で用語が変わることもある
- ・英語にすれば同じものが日本語訳でばらせる → どうでもよい問題
- ・新しい知見 → 学会内で定説化 → 事典に記述 → 教科書に反映(時間が解決)
- ・学会内/学会間で複数の用語 → 統一は困難

④地学基礎用語(相川氏)

- ・岩石鉱物分野 → 選ばれる用語にバラツキ小
- ・自然との共生 → バラツキ大
- ・専門外の教員ほど選ぶ用語がばらつく

⑤化学会(畠山氏)

- ・教科書会社にアンケート(文科と事前打ち合わせ)
- ・問題のある用語、2017年まで3回に分けて検討
- ・国際的な用語法に則っているか
- ・学問体系から見ると筋が通った合理的な教科教育がない → 教科書にさまざまな制約

◎総合討論

- ・地学専門外の教員は報道を選択の根拠としている
- ・自然との共生における用語は、ローカルな影響がある
- ・高校での用語検討は、学会等の提言による方がよい
- ・同じ概念を表す語句の不統一と重要語句の語数のバラツキに分けて議論すべき
- ・用語の統一が過ぎると、国定教科書になる
- ・どの教員が教えても同じ内容が生徒に伝わるよう、ある程度用語の統一は必要
- ・日本の教科書は、教員が行間を補って初めて機能する
- ・教員が研修によって力を付けることが必要（本質的な解決）
- ・地理と地学の棲み分け。地学は現象のメカニズム中心。
- ・科学と人間生活で自然との共生を扱うべき

今後の用語問題への対応については、新たなWGを作って進め方の検討を行うことを確認した。

(2) 次期パブリックセッションの進捗状況について

代表コンビナーより、現在の進捗状況の報告があった。概要は下記の通り。

- ・コンビナー団（防災2、教育課程2）およびスコープの紹介
- ・今年度のセッション構築の方針（気象災害を扱う、生徒・学生との議論、1コマ開催）
- ・確定及び折衝中の招待講演者
- ・セッション当日の運営上の係分担の追加（写真撮影、オンライン対応）
- ・今後の作業行程

(3) その他

防災に関する学習指導要領上の問題点を指摘した提言案について、防災教育小委員会からの提案を本委員会で年内を目途に検討することを確認した。

4 次回小委員会

防災教育小委員会、パブリックセッションコンビナー団の要請にしたがって、次回日程を調整・決定する。